

## 2025年度事業計画書

### 1. 「子どもの未来を応援する 保育所等助成事業」

(豊かな次世代社会の創造に資する活動を行う団体等を支援する事業)

第13回の公募助成を次のとおり実施する。なお今年度より、当該事業に関わる運営をシステム化する(レディメイド型の「Graain」を導入)。

#### (1) 助成内容：

①保育所等が、子どもたちのために独自に実施する保育計画に要する什器・備品等の購入費用(の一部)を助成する。

助成金額は、定員規模別に次の通りとする。

定員30人未満	定員30~99人	定員100人以上
上限30万円	上限70万円	上限100万円

②保育所等が行う保育の質を高めるための新規の取組み(ア.地域とのつながりを深める取組み イ.保育士等施設職員の専門性向上につながる取組み ウ.子どもたちや施設の安全性を高める取組み)に必要となる什器・備品等の購入費用(の一部)を助成する。

助成金額は、定員規模に関わらず一律50万円を上限とする。

総助成金額は、①と②合計3,000万円以内で、選考の上決定する。

#### (2) 応募対象：全国の2022年4月から2025年4月末日までに認可等を受けて

開園した以下の保育施設とする(応募対象は設立後3年以内)。

- ・認可保育所
- ・地域型保育事業(小規模保育施設・事業所内保育施設(地域枠有り))
- ・企業主導型保育事業(地域枠有り)
- ・地方単独保育施設(ただし3歳児未満の受け入れも行う施設。保育ママは含まない)
- ・認定こども園(幼保連携型・幼稚園型・保育所型・地方裁量型のいずれも対象)

#### (3) 助成施設へのフォロー取組み

- ・目録贈呈式を通じた助成施設同士の情報交換
- ・機関誌等を通じた好事例(助成施設取材)の公表
- ・助成施設の取組みの成果報告をまとめた「成果報告集」の発行および保育施設・自治体への提供

<参考>これまでの助成実績

回	実施年度	応募数	助成数
第1回	2013	231	35
第2回	2014	157	35
第3回	2015	301	42
第4回	2016	243	44
第5回	2017	236	44
第6回	2018	215	42

回	実施年度	応募数	助成数
第7回	2019	168	40
第8回	2020	157	39
第9回	2021	183	36
第10回	2022	128	44
第11回	2023	275	44
第12回	2024	202	38
累 計		2,496	483

※第11回より応募対象を設立後3年以内に拡大

2. 「都市緑化対策（都市の緑3表彰）」

（豊かな次世代社会の創造に資する活動を行う団体等を支援する事業）

（1）都市緑化に係る助成事業 第36回「緑の環境プラン大賞」

当財団は「ポケット・ガーデン部門」の運営を担当し、「シンボル・ガーデン部門」は公益財団法人都市緑化機構が運営を担当する。

① 「ポケット・ガーデン部門」の運営内容

【助成内容】

日常的な花や緑の活動を通して、「地域交流・コミュニティの活性化や子どもの遊び場作り」、「保育園、幼稚園、学校、福祉施設等での情操教育等」のアイデアを盛り込んだプランを募集し、緑地植樹や設備の整備、資材購入等の費用を助成する。優れた作品には「国土交通大臣賞」「第一生命財団賞」等を授与する。助成金額は、1件あたり150万円を上限に10点程度、総額1,500万円以内とする。

【応募対象】

全国の民間・公共の各種団体とする。※

※具体的には、次のような団体を想定している。自治体とその関連団体に加え、花や緑の活動に関わる市民団体（花、緑、まちづくり等の各種ボランティアグループ）、NPO、学校・幼稚園・保育園、病院、福祉施設、マンション管理組合、商店組合、町内会、事業者、公益・一般の財団・社団法人

## ②「シンボル・ガーデン部門」の運営内容

ヒートアイランド緩和効果や生物多様性保全効果等を取り入れることにより人と自然が共生する都市環境の形成、およびコミュニティの活性化に寄与するアイデアを盛り込んだ地域のシンボリックな緑化プランを対象に助成を行う。優れた作品には「国土交通大臣賞」「第一生命賞」等を授与する。  
助成金額は、1件あたり1,000万円を上限に3点程度、総額3,000万円以内とする。

## ③助成施設へのフォロー取り組み

- ・表彰式および、みどりの『わ』交流のつどいを通じた助成施設同士の情報交換
- ・助成施設の取り組み成果をまとめた機関誌(Green Story)作成

<参考>「緑の環境プラン大賞」近年の応募数

	部門	2020	2021	2022	2023	2024
緑の環境 プラン大賞	ポケット・ガーデン部門	22	24	25	26	25
	シンボル・ガーデン部門	11	24	8	11	13
合計		33	48	33	37	38

## (2) 都市緑化に係る顕彰等事業「緑の都市賞」、「緑化技術コンクール」

第45回「緑の都市賞」、第24回「緑化技術コンクール」を次の通り実施する。  
なお、当財団は特別協賛としての位置づけで参画。

### ①「緑の都市賞」の実施内容

緑豊かなまちづくりを目指し、緑を用いた環境の改善、景観の向上などに取り組み、優れた実績をあげている市民団体、企業、地方公共団体等を顕彰する。優れた実績には「内閣総理大臣賞」「国土交通大臣賞」「第一生命財団賞」等を授与する。なお、緑化による地域社会の課題解決等の事例については、機関誌にて取材記事を掲載する。

### ②「緑化技術コンクール」(緑化施設部門、特定テーマ部門)の実施内容

気候変動への適応、2030年ネイチャーポジティブの実現、官民連携による居心地の良い空間づくりやにぎわい創出等の実現に資する緑化技術について、積極的に取り組み、優れた成果をあげている企業、地方公共団体、個人等を顕彰する。優れた作品には「国土交通大臣賞」「環境大臣賞」等を授与する。なお、都市生活の緑を豊かにする高度な技術を生かした取り組みについては、機関誌にて取材記事を掲載する。

<参考>「緑の都市賞」「緑化技術コンクール」近年の応募数

賞	部門	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
緑の都市賞	緑の市民協働部門	41	27	14	20	18	15	14
	緑の事業活動部門	13	9	11	6	12	10	13
	緑のまちづくり部門	6	3	2	2	6	2	4
合計		60	39	27	28	36	27	31
緑化技術 コンクール	屋上緑化部門	8	11	3	6	6	4	28
	壁面・特殊緑化部門	14	4	2	9	4	6	
	特定テーマ部門	3	3	2	4	1	6	6
合計		25	18	7	19	11	16	34

※緑化技術コンクールは2024年度より「屋上緑化部門」と「壁面・特殊緑化部門」を統合し「緑化施設部門」に名称変更

(3)「第8回みどりの『わ』交流のつどい —都市の緑三賞表彰式—」の開催

公益財団法人都市緑化機構との共催により、以下の通り「都市の緑三賞」の受賞団体への表彰式を行う。表彰式は皇室行事として開催され、例年秋篠宮家よりご臨席を賜っている。

① 時期

都市の緑三賞の受賞者決定後、11月中旬～12月中旬頃

② 出席者

都市の緑三賞の受賞者等

後援である国土交通省や環境省の大臣クラス

特別協賛である第一生命の社長および関連部門役員

3. 調査研究事業

(豊かな次世代社会の創造に資する調査研究を推進・支援する事業)

(1) 公募による調査研究事業

1990年度から実施している住生活分野の研究助成公募を、2025年度も引き続き次のとおり行う。なお今年度より、当該事業に関わる運営をシステム化する(レディメイド型の「Graain」を導入)。

① 助成内容：わが国の住宅、都市、土地に関し、経済、社会、法律、歴史、制度、計画およびこれらの複合的視点から、住生活の改善向上をはかるための研究に対し、助成を行う。

助成金額は一般研究および奨励研究(年齢40歳未満の若手研究者が対象)の合計で1,000万円以内とする。

- ② 研究報告書の発行：これまでに助成した研究について、その研究報告書を発行し関係諸機関に配布するとともに、希望者にも実費で頒布する。

## <今迄の実績>

[旧三財団時代(合併前)]

回数	実施年度	応募数	助成数
第1回 ～22回	1990年度～ 2012年度	1,446編	268編

(平均) (66編) (12編)

[第一生命財団発足後]

年度	応募数			助成数		
	総数	一般	奨励	助成数	一般	奨励
2013	61	44	17	10	6	4
2014	57	39	18	8	5	3
2015	56	37	19	8	4	4
2016	49	34	15	8	6	2
2017	53	41	12	9	5	4
2018	61	42	19	10	5	5
2019	45	31	14	11	6	5
2020	48	34	14	9	5	4
2021	40	29	11	10	6	4
2022	42	31	11	10	6	4
2023	64	46	18	11	5	6
2024	68	49	19	-	-	-
合計	644	457	187	104	59	45

(平均) (53.7編) (38.1編) (15.6編) (9.5編) (5.4編) (4.1編)

総合計
2,090編

総合計
372編

## (2) 研究委託事業

住生活、地域社会、姿勢・健康の各分野で引き続き次の通り行う。(助成金額は各 100 万円)。なお、今までに助成した研究も含めて、その研究報告書を関係諸機関に配布する。

### <住生活>

市川紘司先生 東北大学 助教

「台湾現代住宅における環境的・社会的取り組み」

### <地域社会>

宮本雄太先生 福井大学 准教授

「循環と保育：園での生き物との関わりを通じた保育の循環とその実践的課題」

### <姿勢・健康>

森川美和先生 公益財団法人共用品推進機構 業務部調査研究課 課長

「幼児を取り巻く備品（運動系、遊具類、絵本等）に関する研究

～幼児の心身の健康と発達を促す備品調査を通して～」

## 4. 普及・啓発事業

(豊かな次世代社会の創造に資する調査研究の推進・支援および団体等への支援に関する情報収集及び出版物の刊行を中心とする普及・啓発事業)

引き続き、以下の3誌を出版し、中央官庁、地方自治体、保健所、図書館、マスコミ等に寄贈する。なお、『Community コミュニティ』については引き続き海外の主要な日本研究機関にも寄贈を行う。

(1) 住生活分野：『City&Life 都市のしくみとくらし』・・・年3回、4月・8月・12月に発行する。

(2) 地域社会分野：『Community コミュニティ』・・・年2回、5月・11月に発行する。

(3) 姿勢・健康分野：『ポスチャー POSTURE しせいと生活』・・・年1回7月に発行する。

「保育所等助成事業」、「都市の緑3表彰」については、当事業の認知度の向上と普及・啓発を目的として、各機関誌にて取材記事を掲載し、寄贈する。

## 5. その他

加入学会の活動支援

・日本家族社会学会 ・日本人間工学会

以上